

製品名: GRK 1 (リン酸化 Ser21) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04748**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	63kDa

抗原情報

遺伝子名	GRK1
別名	GRK1; RHOK; Rhodopsin kinase; RK; G protein-coupled receptor kinase 1
遺伝子 ID	6011.0
SwissProt ID	Q15835
免疫原	抗血清は、ヒト GRK1 の Ser21 リン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 6-55

背景

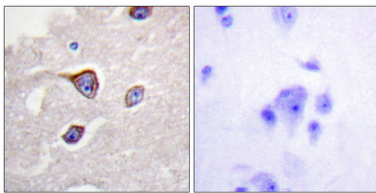
この遺伝子は、Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリーのGアニンヌクレオチド結合タンパク質（Gタンパク質）共役受容体キナーゼ

サブファミリーのメンバーをコードしています。このタンパク質はロドプシンをリン酸化して不活性化を開始します。GRK1 の欠陥は、大口病 2 (大口病型 2 型とも呼ばれる) を引き起こすことが知られています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + [ロドプシン] = ADP + [ロドプシン] リン酸.,疾患: GRK1 の欠陥は、大口病としても知られる先天性夜盲症大口型 (CSNBO) [MIM:258100]の原因です。先天性夜盲症は、夜間視力の障害を特徴とする非進行性の網膜疾患です。CSNBO は常染色体劣性遺伝形式であり、眼底の変色と異常に遅い暗順応を伴います。機能: ロドプシンをリン酸化することで、その不活性化を開始します。オンライン情報: Retina International's Scientific Newsletter,PTM: 自己リン酸化。PTM: 完全な活性にはファルネシル化が必要です。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。AGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。GPRK サブファミリー。類似性: 1 つの AGC キナーゼ C 末端ドメインを含みます。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。類似性: 1 つの RGS ドメインを含みます。組織特異性: 網膜および松果体。,

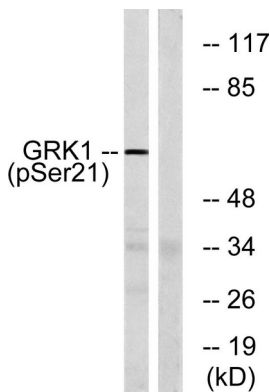
研究分野

ケモカイン;エンドサイトーシス;

画像データ



GRK1 (リン酸化 Ser21) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



TNF 20 ng/ml 5 'で処理した COS7 細胞のライセートを GRK1 (リン酸化 Ser21) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。